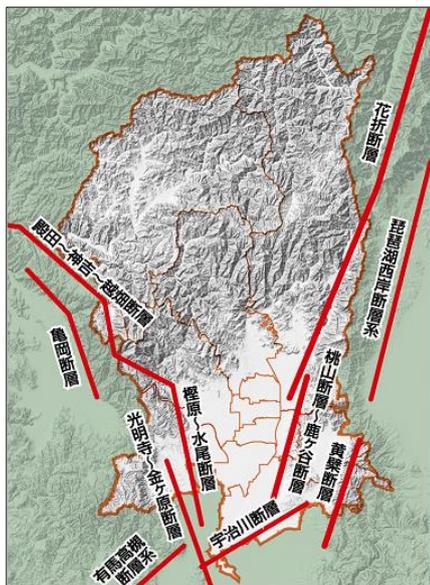


# 「京都市レジリエンス戦略（案）」 に対する御意見を募集します。

行政がすべきこと、市民の皆様にごできることを一緒に考えていきませんか？



昨年は、地震、豪雨、台風が猛威を振るい、台風21号では、多くの家屋が被害を受け、最長で17日間も停電が発生しました…

最高気温は「観測史上1位」を記録し、なんと！東の方角から台風がやってきました。

地球全体の環境に良くないことが起きているのでしょうか。



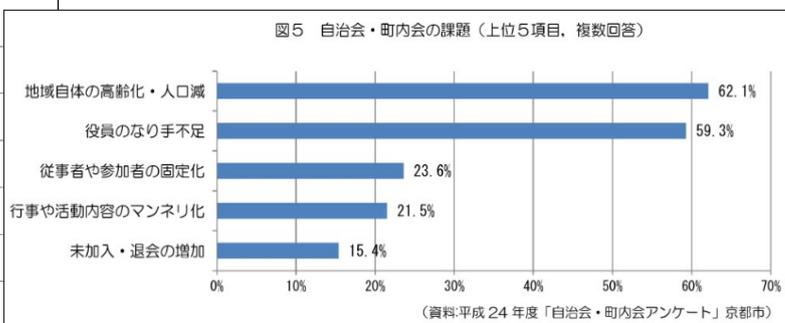
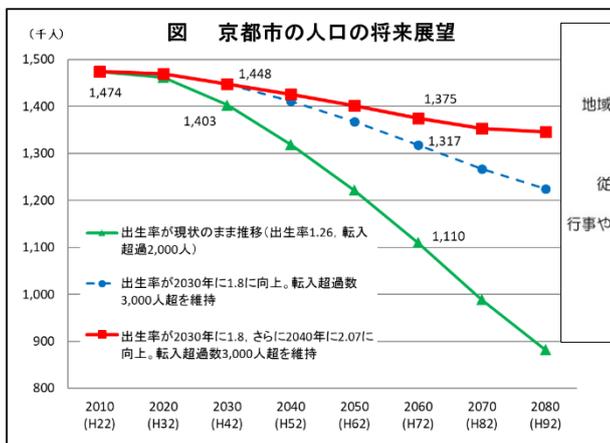
パフコメくん



私の町内では、今年は地蔵盆が開けませんでした…

最近できたマンションには子どもたちがいるようですが、町内会の付き合いは面倒だと断られています。顔と名前がわからない人が増えてきました。

いざという時、助け合いができるのでしょうか。



資料:「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略

考えるヒントは…「レジリエンス」です →

## ■ 意見募集期間

平成 31年 1月 7日(月)～平成 31年 2月 12日(火)【必着】

(詳細は、本資料の11ページを御覧ください。)



むかし

## 先人から受け継いできた大切な京都の魅力

提供:京都市メディア支援センター



山紫水明の景観



地域のつながり(区民運動会)



地域の伝統行事(地蔵盆)



美しいまちなみ

京都は千年以上もの間、自然災害や疫病、戦乱、明治維新による都の移転などの危機がありましたが、その都度乗り越え、持続・発展し、まちの魅力を継承してきました。

これは、決して簡単な道のりではなく、歴史や伝統、またそれらに対する誇りに根差した知恵と工夫により、

例えば～自然を支配するのではなく自然と共生する～

～武力に対して武力でなく文化で立ち向かう～

市民（町衆）ぐるみで実践されてきたことなのです。

このような、

いかなる危機に瀕しても、しなやかに対応し、以前よりもより良く回復しようとする態度や考え方のことを、現代の言葉で「レジリエンス」といいます。

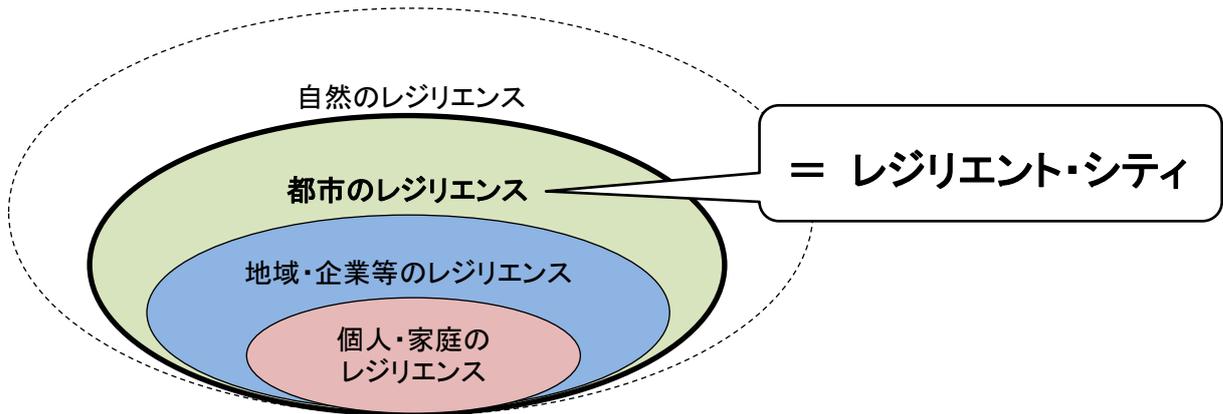
千年以上前から、京都の人々は「レジリエンス」を実践してきたのです。

# いま 現代のわたしたちに、今日できること

東日本大震災が1つのきっかけになり、「レジリエンス」という言葉に関心が集まっています。

この「レジリエンス」の主体を都市に置いたのが、「レジリエント・シティ」です。

都市がレジリエンスであるためには、最小単位としての「**個人・家庭**」や、それを取り巻く「**地域・企業等**」がレジリエンスであるかどうかが大きく関わっています。そして、都市のレジリエンスは、周囲の自然、ひいては地球環境にも大きな影響を及ぼしているのです。



## 都市のレジリエンスの礎となる

### 「個人・家庭」や「地域・企業等」のレジリエンスの取組例

- 食料や水を少なくとも3日分は家庭に備蓄する。
- 自分自身を向上させる。
- 文化活動やボランティア活動などに参加する。
- 近所の人とのあいさつをしたり、地域の行事に参加する。
- 人と自然と地域を大切にしたい企業活動を行う。



普段の何気ない行動が  
レジリエンスに！

- 様々な状況においても、生活できる術が身に着く。
- 自身の知恵や知識の向上が、自分だけでなく、他の人の役に立つ。
- 活動を通じた人のつながりが、災害時にも生きる。
- 企業だけでなく、人も地域も持続・発展する。



今後とも、あらゆる危機を乗り越え、発展し続けられる都市を目指して、市民と行政が一体となって取り組む方向性を示すものとして、<sup>いま</sup>今日、

**「京都市レジリエンス戦略」**を策定します。→

# 【第1章 レジリエンス戦略について】

## 1 レジリエンス戦略の目的

**“あらゆる危機を乗り越え、20年、50年、更には100年、1000年後も、京都が京都であり続ける”**

自然災害や人口減少などの様々な危機に対し、粘り強くしなやかに対応し、将来にわたって人々がいきいきと暮らせる、魅力と活気に満ちた京都であり続けることを目指します。

### 【戦略策定の背景】

- ・ 京都は、千年以上、幾多の危機を乗り越え、持続・創造・発展してきた、「レジリエンス」なまちでした。
- ・ しかし、今日、大規模自然災害や人口減少等、都市の持続に関わる深刻な問題に直面しており、改めて今、京都の「レジリエンス」を、再点検し、磨き直し、より強靱化することが課題となっています。

京都が魅力あるまちであり続けるために、今何が必要なのでしょうか？



### ロックフェラー財団「100のレジリエント・シティ」

京都市は、平成28年5月に、アメリカの慈善事業団体ロックフェラー財団が推し進める「100のレジリエント・シティ」プロジェクトに参加する世界100都市の1都市に選定され、これを機に当戦略の策定に取り組んでいます。

※日本からは京都市と富山市が選定。



## 2 レジリエント・シティ実現のための手段

### 市民等と行政のあらゆる力の「更なる強化の持続」

#### (1) レジリエンスの視点で政策を点検・強化

- ① 行政分野を越えた政策の融合
- ② 市民等との協働
- ③ イノベーション(前例の打破, 変革)
- ④ 「想定外」の克服
- ⑤ ピンチをチャンスに変える発想の転換

①～⑤のレジリエンスの視点で行政として取組を進めます



#### (2) 京都が誇る「地域力」, 「市民力」の更なる強化

- ① 地域の絆の強化
- ② 多様な力(大学, 企業, NPO 等)との連携
- ③ レジリエンスの理念の共有
- ④ 市民一人一人の価値観やライフスタイル, 働き方の転換
- ⑤ レジリエント・シティの担い手の育成

市民の皆様との協働で取組を進めます



## 3 SDGs, 創生総合戦略との連携・融合

レジリエンス, SDGs, 創生総合戦略の連携・融合により、政策の相乗効果を追求。

※SDGs(Sustainable Development Goals:国連の「持続可能な開発目標」)

※創生総合戦略:急激な人口減少に歯止めをかけ、その大きな要因となる東京一極集中の是正を目指す「地方創生」の京都市版戦略。「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略

## 4 取組期間

2019年度から2040年度までとします。

## 【第2章 京都市におけるレジリエンスの課題】

本市が直面している、あるいは今後発生又は深刻化し得る主な危機(レジリエンスの課題)として、以下のものが挙げられます。

### 1 自然災害等

特に危惧される自然災害として、花折断層を震源とする直下型地震や南海トラフ地震の影響及び豪雨等による土砂災害・風水害等が想定されます。平成 30 年は、大阪北部を震源とする地震(6 月)により、市内で震度 5 強を観測したほか、7 月豪雨や、台風 21 号など 4 度にわたる台風の襲来により、被害等が発生しました。

【平成 30 年台風 21 号による被害】

戦後最大を記録する暴風による影響で、5 千軒を超える家屋被害(平成 30 年 10 月 31 日時点)や、最大約 9 万軒に及ぶ停電が最長で 17 日間発生するなど、多くの被害が発生しました。

### 2 人口減少

少子高齢化の影響等により、平成 17 年からは、出生数を死亡数が上回る自然減が継続、拡大傾向にあります。平成 23 年以降は、転入数が転出数を上回る転入超過が続いており、人口減少に一定の歯止めがかかっていますが、自然減をカバーできず、今後も少子化等により、中長期的に人口減少傾向は続く見込まれます。

【自然動態(出生数と死亡数の差)】

平成 17 年 525 人減 ⇒ 28 年 2,807 人減, 29 年 3,905 人減, 30 年 4,697 人減

【社会動態(転入数と転出数の差)】

平成 23 年 1,071 人増 ⇒ 28 年 3,021 人増, 29 年 2,022 人増, 30 年 2,511 人増

### 3 地域コミュニティを取り巻く課題

人口減少や少子高齢化の影響による担い手不足は、自治会・町内会に限らず、その他の地域組織にも関係し、防災や防犯、清掃・美化活動、高齢者の見守り等の福祉活動など、様々な取組の存続を危うくするものです。

### 4 文化の継承や活用に向けた課題

価値観の多様化に伴う生活様式の変化や地域社会の希薄化等により、地域に根差した暮らしの文化の継承が難しくなっています。

### 5 京都経済の活性化に向けた課題

市内企業においては、業種・地域を問わず人手不足が深刻化しており、特に市内事業所の 99%を占める中小企業では、経営者の高齢化と後継者不在など、担い手不足の深刻度が増えています。

### 6 空き家など住環境の課題

本市の空き家率は 14.0%(約 11.4 万戸)であり、全国及び政令市平均の空き家率を上回っています。(平成 25 年住宅・土地統計調査)

### 7 景観の保全・継承に向けた課題

京都の町並み景観と生活文化の基盤である京町家は、年間平均で 1.7%減失しており(平成 28 年調査)、「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」(平成 29 年 11 月制定)に基づき、更なる保全・継承に取り組む必要があります。

### 8 環境共生や脱炭素社会に向けた課題

環境負荷の低減はもとより、本市唯一の最終処分場を長く使用していくため、更なるごみ減量を進める必要があります。また、全ての生命が存続する基盤であり、安全で豊かな暮らし、文化・祭り等を支えてきた生物多様性の保全が危ぶまれています。さらに、東日本大震災以降、電気のCO<sub>2</sub>排出係数の悪化により、温室効果ガス排出量の削減率が小幅に留まっています。

## 【第3章 レジリエント・シティ京都の実現に向けて】

### 1 6つの重点的取組分野

第2章の課題、市民、有識者等との意見交換等の議論を踏まえ、以下の6つを、「レジリエント・シティ京都」の実現に向けた本市の重点的取組分野として設定します。  
課題は相互に絡み合っており、「この課題にはこの対応策」という1対1の枠組みでは捉え切れなくなっています。

そのため、分野の壁を超えた政策の融合が重要となります。

#### 【重点的取組分野】

- (1) 人が育つまち（人口減少・少子高齢化対策等）
- (2) 支え合い、助け合うまち（地域コミュニティ活性化等）
- (3) 豊かに暮らせるまち（文化・芸術創生、経済・産業発展等）
- (4) 快適で安心安全なまち（景観・町並み保全・創生、空き家活用促進、防犯等）
- (5) 環境にやさしいまち（地球温暖化対策等）
- (6) 災害に強いまち（防災・減災、テロ対策、インフラ老朽化対策等）

### 2 各重点的取組分野におけるリーディング事業

本市施策・事業のうち、レジリエンスの視点（P4参照）から、他の取組を先導する役割が期待できるなど、重要な施策・事業を「リーディング事業」と位置付けます。

これら为先導的・象徴的な取組として重点的に推進するとともに、レジリエンスの視点をあらゆる政策に行きわたらせ、リーディング事業以外の関係施策・事業等も含めて、継続して点検・強化しながら総合的に推進します。

→具体的な事業は「戦略（案）本編」に掲載しています。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/templates/pubcomment/gyozai/0000245604.html>

#### 1 人が育つまち

##### 【目指すまちの姿】

現在そして将来の担い手の育み、多様なひとの力の発揮、活躍の促進など、あらゆる取組を推進する基盤となる「人が育つまち」

##### 【主な課題】

- ・少子高齢化が進展する中で、死亡数が出生数を上回る自然減が拡大し、今後、中長期的にも続くと見込まれる人口減少
- ・大学のまち・学生のまち京都で学んだ学生の東京圏への転出や、安価な住宅を求める子育て世代の周辺都市への転出など、京都の将来の担い手となる層の市外流出
- ・人口減少がもたらす経済成長の低迷や労働力人口の減少、社会保障制度を支える現役世代の負担増、地域活動の担い手不足など、様々な分野への深刻な影響

##### 【取組の方向性】

- ① レジリエント・シティの未来の担い手を、まちぐるみで育む取組の推進
- ② だれもがあらゆる場で活躍できるレジリエンスな社会環境の構築・整備
- ③ 京都で学び、働きたいという希望をかなえる移住・定住促進

～リーディング事業の一例～

##### 「学校運営協議会」の取組

本市では、学校・家庭・地域が共に行動し、地域ぐるみで子どもを育てるために、学校運営協議会を設置しています。

「京都方式」の学校運営協議会は、保護者や地域住民が「子どもたちのために汗をかく学校の応援団」として積極的に学校運営に参画し、学校と地域との協働活動を通して子どもたちに地域への愛着や地域の一員としての役割、人との絆の大切さを伝えるなど、将来の地域の担い手育成を図るとともに、地域の活性化にも寄与しています。



## 2 支え合い、助け合うまち

### 【目指すまちの姿】

町衆文化が受け継がれるなど、地域各々の歴史が息づくとともに、国籍や文化などの違いを超えたコミュニティとして賑わいや活力のある「支え合い、助け合うまち」

### 【主な課題】

- ・人口減少や少子高齢化の進展，居住形態や生活様式の多様化による，地域コミュニティの活力の低下
- ・防災や防犯，清掃・美化活動，高齢者の見守り等の福祉活動など，京都ならではの住民自治の伝統を受け継いで行われてきた様々な活動の存続の危機

### 【取組の方向性】

- ① 京都の住民自治の伝統や支え合いの精神が息づく地域力・市民力の更なる強化
- ② 地域社会の担い手不足解消等に向けた，地域活動やまちづくりへの多様な力の参加促進
- ③ 地域力・市民力を支える地域コミュニティの活性化や，健やかで安心安全な地域づくりのための，区役所・支所と関係団体・機関等の連携促進

～リーディング事業の一例～

#### 「地域コミュニティ活性化」の取組

学区の自治連合会や自治会・町内会等が加入率向上や活性化，地域力の向上を目指して自主的に取り組む事業を助成等により応援しています。

地域の魅力や活動情報の発信，未加入の住民との交流イベントの開催，マンションでの自治会設立に向けた取組，地域課題に対応するため各種団体等が連携する仕組みづくりなどの取組が広く展開されています。



## 3 豊かに暮らせるまち

### 【目指すまちの姿】

文化・芸術が次世代に継承され，更に発展するとともに，伝統と革新が融合しながら，経済成長の好循環が生まれる「豊かに暮らせるまち」

### 【主な課題】

- ・本市の個性，魅力の源泉でもある多様で重層的な文化芸術の保全・継承を脅かす，少子高齢化等に伴う担い手不足，ライフスタイルの変化や価値観の多様化による需要の低下等
- ・京都の発展の礎を築いてきた市内産業が直面する，競争環境の激化，担い手不足等

### 【取組の方向性】

- ① 京都ならではの文化によるレジリエンスの推進に向け，文化の持続可能性を高めるための担い手の育成や機運の醸成
- ② 文化と産業・観光との融合など，文化による経済の活性化等を図り，都市の持続可能性につなげる取組の推進
- ③ 伝統と革新が融合した，ものづくり都市・京都の知恵と強みを活かした成長戦略の推進

～リーディング事業の一例～

#### 「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」の取組

文化遺産の新たな魅力を伝えるために，京都の文化遺産をテーマごとにまとめ，地域性，歴史性，物語性を持った集合体として認定し，京都の文化遺産の維持・継承・活用を図っています。

更に，この取組は，デジタルスタンプラリーの実施や外国人観光客のツアー作成に取り組むなど，観光資源への活用も進めています。



## 4 快適で安心安全なまち

### 【目指すまちの姿】

市民の暮らしの中で、京都ならではの景観・町並みが息づきながら、都市生活の環境が整った「快適で安心安全なまち」

### 【主な課題】

- ・京都の町並み景観と生活文化の基盤である京町家の滅失の進行
- ・全世界の人々が訪れ、集い、交流するまちとなっていくうえで避けて通れない、観光と住民生活との調和や、観光客も含めた一層の安心安全確保
- ・高齢化の進展や観光客の増加等を背景とした、誰にとっても快適な都市環境に対する需要の高まり

### 【取組の方向性】

- ① 京都ならではの景観・町並みや、良好な居住・生活環境等の持続可能性を高める総合的な対策の推進
- ② 人々のいのちと暮らしを守り、安心安全な生活環境を実現する取組の推進
- ③ あらゆる人々の安心安全を支える都市環境の創出・提供

～リーディング事業の一例～

#### 「空き家対策」の取組

昔ながらの町並みが残る一方、高齢化が目立つ紫野学区。近隣の大学を巻き込み、自治会や地域住民によるまちづくり活動を継続して行ってきました。

その取組の一つとして、まちあるきで把握した空き家の一つを学生向けシェアハウスに活用。

ボランティアや地域の方の協力を得て改修し、地域と学生をつなぐ機会となりました。



## 5 環境にやさしいまち

### 【目指すまちの姿】

自然と共生する中で磨き上げ、今も息づく環境への高い意識のもと、市民ぐるみで進める保全と発展が調和した「環境にやさしいまち」

### 【主な課題】

- ・猛暑や度重なる豪雨など、地球温暖化が一因になっていると考えられる極端な気象現象の多発
- ・京都に様々な恵みをもたらしてきた三山の荒廃や、固有生物の減少・絶滅等、自然環境の保全や伝統文化の継承を揺るがす危機
- ・持続可能な循環型社会の実現に向けた、市民や事業者との協働による更なるごみ減量の取組の必要性

### 【取組の方向性】

- ① 環境先進都市としてのモデルとなる取組の推進と発信  
～京都議定書誕生の地・京都の使命～
- ② 京都の暮らしや文化を支える、自然環境の保全に向けた取組の促進
- ③ 持続可能な社会を構築する担い手と環境にやさしい社会経済のしくみづくり

～リーディング事業の一例～

#### 「環境にやさしいライフスタイル」の取組

「環境にいいことしていますか？」を意味する「DO YOU KYOTO?」を合言葉に、イベントなどの広報活動を積極的に行い、市民・事業者と一丸となった地球温暖化対策を推進しています。

また、京都議定書の発効日にちなんで毎月16日を「DO YOU KYOTO?デー」として

「ライトダウン」や「ノーマイカーデー」などの取組を実施しています。



## 6 災害に強いまち

### 【目指すまちの姿】

社会インフラの適切な管理や防災まちづくりの推進に加え、市民一人ひとりの防災意識が更に高まることで、自助・共助・公助が整った安心安全で「災害に強いまち」

### 【主な課題】

- ・都市機能が発達した中で危惧される、土砂災害や風水害、大地震などの自然災害被害の甚大化
- ・人口減少や少子高齢化等による地域防災力の低下
- ・災害発生時の緊急輸送路として機能する道路等の社会インフラの老朽化

### 【取組の方向性】

- ① 市民、企業等の知恵と力を活かした防災まちづくりの推進
- ② 地域力・市民力を活かした、強靱でしなやかな防災・減災力の更なる向上
- ③ 災害発生時に、危機に陥ることなく都市機能を維持するための、強靱な社会インフラづくり

～リーディング事業の一例～

#### 「消防団」の取組

京都市の消防団は、各行政区に設けられた11の消防団とおおむね学区単位に設けられた205の消防分団等をもって組織しています。

消防団は、消防局との力強い連携により、火災、震災等における警戒防御活動を行うとともに、市民の防火・防災に対する意識と対応力を高めるため、昼夜を分かたず活動しています。



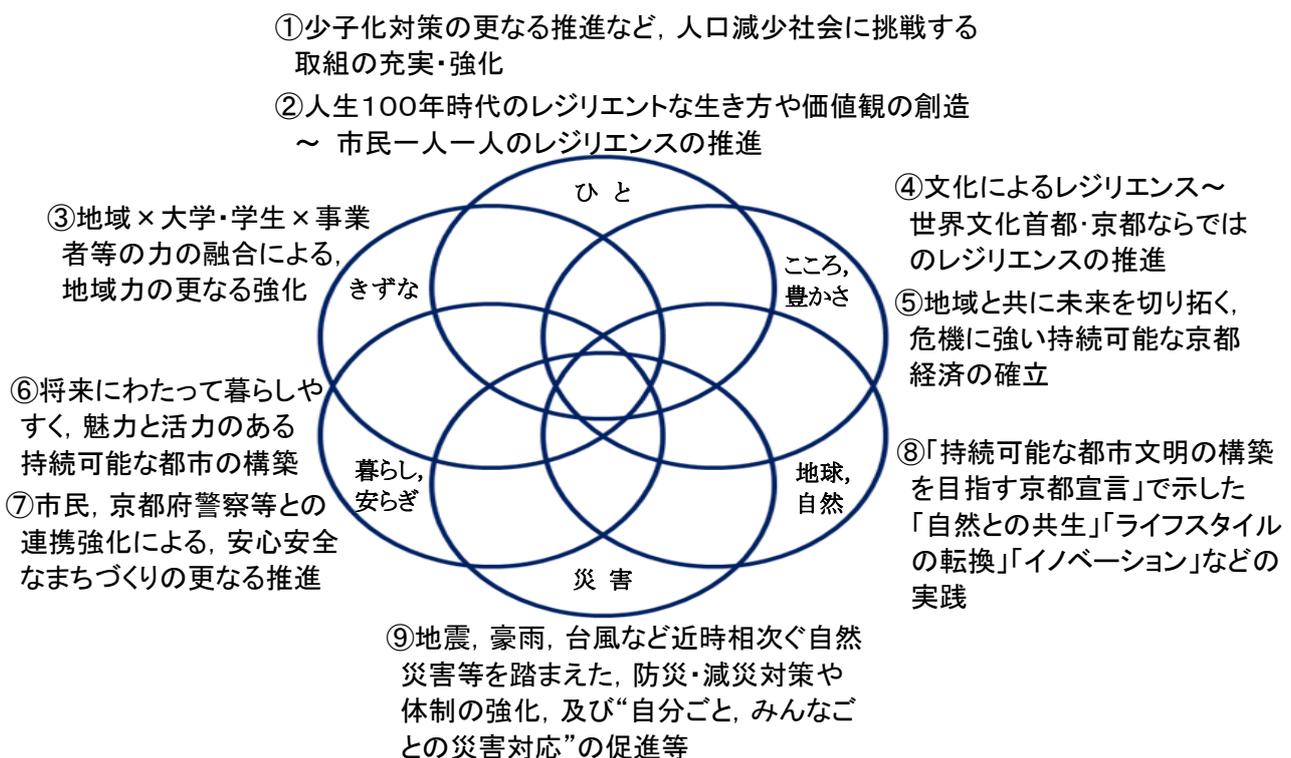
## 3 京都のレジリエンス さらなる取組の検討案

上記のリーディング事業に加え、さらに今後に向けて、効果的と考えられる取組の案(検討案)を以下に掲げます。

⇒具体的な内容は「戦略(案)本編」に掲載しています。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/templates/pubcomment/gyozai/0000245604.html>

「レジリエンス」なまちであり続けるために、こんな取組を考えています。



## 【第4章 戦略の推進方法等】

### 1 市民等との協働，国内外の都市や関係機関等との連携による推進

#### (1) 市民，地域，NPO，企業，大学等との連携・協働

「“みんなごと”のまちづくり推進事業」をはじめ，あらゆる政策分野で連携を促進することにより，市民等と行政が「ひとごと」ではなく，「自分ごと」，「みんなごと」として知恵と力を出し合い，レジリエント・シティの取組を推進します。

#### (2) 国，京都府，他の市町村等との連携

レジリエント・シティの取組を本市だけでなく，京都全体，更には関西，我が国全体に波及させていくことを視野に，京都府等との連携を一層深め，レジリエント・シティの普及・拡大を図ります。

#### (3) 海外都市等との連携や国際的都市間ネットワークの活用

「100のレジリエント・シティ」に選定された海外都市等との連携や情報共有を図りながら，本市の取組を広く発信するとともに，先行事例を本市の取組に活かす等の取組を進めます。

### 2 本市の推進体制

#### 「京都創生総合戦略・レジリエンス・SDGs」推進本部

市長，副市長，CRO(※)，全局・区長等の参画のもと，全庁を挙げた取組を推進します。

(※ レジリエント・シティ京都市統括監)

### 3 進行管理

本戦略の取組の進捗状況等については，市民や有識者等の皆様からの御意見や，推進本部等の議論等を通じて，適切かつ効果的に把握し，点検を行います。

この点検を踏まえ，関係部局等における新たな事業の実施，既存事業の充実・見直しなど，必要に応じて改善を行います。

## 意見募集期間

平成 31年 1月 7日(月)～平成 31年 2月12日(火)【必着】

## 提出方法

御意見は、持参・郵送・FAX・電子メール及び下記の市民意見募集ホームページ内の専用フォームからの送信のいずれかの方法により提出してください。

様式は自由ですが、このページの裏面の御意見記入欄を御活用ください。

<電子メールアドレス>

rkyoto@city.kyoto.lg.jp

<市民意見募集ホームページURL>

<http://www.city.kyoto.lg.jp/templates/pubcomment/gyozai/0000245604.html>



## 提出先・問合せ先

京都市 行財政局 防災危機管理室

〒604-0931

京都市中京区押小路通河原町西入る榎木町450-2 消防庁舎1階

TEL:075-212-6792 FAX:075-212-6790

- ※ この意見募集で収集した個人情報につきましては、「京都市個人情報保護条例」に基づき適切に取り扱い、他の目的に利用することは一切ありません。
- ※ 御意見につきましては、意見募集の終了後に、御意見の概要及び御意見に関する本市の考え方を取りまとめ、ホームページで公表します。
- ※ 御意見に対する個別の回答はいたしませんので、御了承ください。

### レジリエンスとは？

「レジリエンス」という言葉は、一般的に、

**様々な危機からの回復力、復元力、強靭性(ダメージを受けても粘り強くしなって元に戻りながら、以前よりもより良く立ち直る、しなやかな強さ)**などを意味します。

例えば、「自然環境が一度損なわれても、生態系が根絶やしにならず、また元に戻る力」として用いられます。

これを都市に応用したものが「レジリエント・シティ」であり、

**「大地震などの自然災害のような突発的な危機や、人口減少や地域コミュニティの活力の低下といった、時間をかけて都市をむしばむような目に見えない危機など、様々な危機に対し、粘り強くしなやかに対応し、将来にわたって人々がいきいきと暮らせる、魅力と活気に満ちた都市」**の姿を表現しています。

# 「京都市レジリエンス戦略（案）」に対する御意見記入用紙

※FAX 等で送付いただく場合は、この用紙をお使いください。

FAX：075-212-6790

## 1 レジリエンス戦略の目的、手段、課題等について


## 2 レジリエント・シティの実現に向けた方向性や具体的な取組について


## 3 レジリエンス戦略の今後の進め方について及びその他


御意見を取りまとめる際の参考としますので、差し支えなければ御記入ください  
(※ 該当するものに「○」をつけてください)。

【年 齢】20歳未満・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代以上

【性 別】( )

【居住地】京都市域( )区・京都市域外

※( )内に行政区を記載してください。

発 行：京都市行財政局防災危機管理室

平成31年1月発行 京都市印刷物第304895号



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

